

Moonrise, Hernandez, New Mexico



“Moonrise, Hernandez, New Mexico” by Ansel Adams, Data: From You Tube channel of “Advancing Your Photography”

アナログ写真は絶滅危惧種？

堺市在住会員 松本憲治

日本においては、アナログ写真を取り巻く環境は年々厳しくなっています。富士フィルムは大判用のネガカラーフィルム、モノクロフィルムの製造を中止し、カラーポジフィルムの銘柄を整理するなど、今後の大判カメラでのアナログ写真環境を考えると、非常に厳しいものを感じる。

今回、筆者が個人的に写真感材の購入で利用する米国B&H社のHP上に掲載の「大判カメラ用シートフィルムのラインアップ」を調べ、「海外ではどのような環境にあるのか？」をまとめてみた。

結果を簡単にまとめると以下の通り。

1. カラーフィルムに関しては、ネガフィルムはコダックの3銘柄（Ektar 100, Portra 160, Portra 400）だけ。ポジフィルムは富士の2銘柄（Provia100, Velvia 100）だけで、**合計2社5銘柄だけのラインアップ**にまで減少。
2. 一方、モノクロフィルムに関しては、富士はAcros100を製造中止したが、現在もKodak、Ilfordを始めとする多くの会社が供給を続けている。因みに供給会社は、Arista、Adox、Berger、Foma、Ilford、Kodak、Rolleiの**7社、17銘柄**に及び、サイズも**4x5, 5x7, 8x10**のほか、**特注となるが11x14, 16x20, 4x10, 14x20**など様々なサイズのフィルムが入手可能。

3. カラー印画紙に関しては、世界的にKodakと富士の2社だけの供給。一方、モノクロ印画紙は銘柄、サイズともに多種多様なものがラインアップされている。例えば、Ilford社の印画紙であれば、RCタイプでは通常のRC Deluxe（純黒調）以外にWarm one（温黒調）、Cooltone（冷黒調）があり、面質はGlossy（光沢）、Pearl（半光沢）、Matt（ツヤ消し）の合計9種類、FB（バライタ）タイプも同様に9種類以上のラインアップがあり、印画紙を変えることによる作品の仕上がり変化を楽しむことが可能。

カラー写真の世界を中心に考えると、「大判カメラによるアナログ写真」の世界は「楽しむにはかなり窮屈な環境」となっている。しかし、中判ブローニフィルムまで対象を広げると、富士もPro160とPro400Hのネガカラーフィルムを継続販売しており、多少はフィルム選択の幅が広がる。更に35mmフィルムまで対象を広げれば、KodakもポジフィルムのEktachrome E100の発売を再開し、富士もネガカラーのラインアップが更に増え、フィルム選択の幅は広がる。（これが2020展から募集作品を「35mmフィルムカメラ」にまで広げた一つの理由）

「大判カメラによるカラー写真の世界」だけを見ると、「取り巻く厳しい環境」だけがクローズアップされるが、カラーなら中判や35mmまで幅を広げるとか、時にはモノクロ写真の世界へも眼を向けてみれば、

アナログ写真は今も元気！

You Tobelにアップされる写真関係の動画を検索すると、Ansel Adams, Clyde Bucher, Michael Kennaなど著名な風景写真家が撮影している様子や、30x40mmなどの大サイズモノクロプリントを制作する様子などの動画を見ることが出来る。また、英国、米国等の英語圏からアップされる数多くのアマチュア写真家の撮影、プリント技術などに関する動画を見ると、海外ではアナログモノクロ写真が今も広く楽しまれているのが判る。

アナログ写真、まだまだ元気！

事務局便り

事務局 高田 幸二

【運営委員会報告】

5月11日（土）塚口さんさんタウン4階 小会議室で運営委員会を開催しました。定期総会にむけて、各議案の検討を行いました。

【5月研究会報告】

5月18日（土）大阪写真会館 4階会議室で5月研究会を開催しました。参加者数は、新入会員の仲山荘志会員を含め9名でした。総会に向けた議案の概要を説明・検討を行い、出席者各位の了解を得ました。

【大判カメラ体験撮影会の日程変更】

大判カメラ体験会は5月25日（土）開催予定でしたが、参加希望者の都合で6月2日（日）に変更しました。

【2020展出展候補作品の審査結果】

5月出展審査を行いました。9名の作品審査を行い、以下の通り出展候補作品に選定されました。

玉田先生：カラー自由1点（5x7）

酒井健一：カラー自由1点（6x6）

末永 宏：カラー自由（課題）3点（4x5）

高田幸二：カラー自由2点、課題1点（4x5）

田中 明：カラー自由1点、課題1点（4x5）

田中俊寛：カラー自由1点（4x5）

前田宗彦：カラー自由2点、課題2点（4x5）

米本雅男：カラー自由1点（4x5）

市川 勉：カラー自由1点、課題1点（4x5）

以上、9名のカラー作品、自由13点、課題5点、合計18作品が出展候補作品に選定されました。

選定された方には、別途、選定候補作品のトリミング見本プリントと出展作品データシートを同封して選定結果をご連絡致します。原板フィルムは、最終出展作品確認会を開催します9月まで、お手数ですがお手元にデータシートとともに保管願います。

【次回運営委員会・研究会の日程】

6月は定期総会開催のため、運営委員会、研究会とも開催致しません。新年度の研究会は、7月から再開致します。

※※ 重要なお知らせ ※※ 今年度年会費振込確認のお願い

本部会計 橋本雅由

本年度の年会費の振込に関し、5月号にて年会費18,000円を、**振込期限の5月31日(金)**までに下記の「ゆうちょ銀行」宛にお振り込みを戴きます様、お願いを致しましたが、お振込みはお済みでしょうか

【ゆうちょ銀行からの振込】

振込先：ゆうちょ銀行

記号：14440 番号：43090361

口座名義：ニホンオオバンシャシンカキョウ
カイ

【ゆうちょ銀行以外からの振込の場合】

銀行名：ゆうちょ銀行

支店名：四四八 (ヨンヨンハチ)

普通口座：4309036

口座名義：ニホンオオバンシャシンカキョウ
カイ

※「モノクロ部会」にも継続在籍される方は

・モノクロ部会年会費：3,000円

を合わせて合計21,000円のお振り込みをお願い申し上げます。

※5月末年会費振込確認を以て「令和元年度協会会員名簿」を作成の上、対象会員宛に6月開催予定の定期総会の議案書と議決・委任状ハガキを送付致します。ついては、振込期限を厳守戴きます様、お願い致します。

もしお振込みが未だの会員がいらっしゃいましたら、至急お振込み戴きます様、宜しくお願い申し上げます。

※※ 重要なお知らせ ※※ 令和元年度定期総会のお知らせ

事務局 高田 幸二

会則 第12条の定めにより、鈴木会長より下記の日程にて令和元年度の定期総会が招集されましたのでご案内致します。

日時：令和元年6月23日(日) 12:00～

場所：大阪駅前第1ビル12階 神仙閣

※受付は**11:30より開始**します。

※総会后、懇親会(自由参加)を開催します。

参加費：7,000円(弁当、飲物代)は、当日会場受付にてお支払い下さい。

総会の出席と懇親会の出席については、同封致します「総会出席確認並びに議案投票兼委任状用紙」にご記入の上、ご連絡戴く様お願い致します。

なお、事情により総会に出席戴けない会員は、同封の「総会出席確認並びに議案投票兼委任状用紙」により、1) 郵送による議決権の行使、または 2) 委任状による白紙委任のどちらかの方法で、総会での議決権を行使して下さい。

総会への出席、若しくは郵送での議決権行使のいずれの場合でも、総会の出席人数、議決権行使結果および懇親会の出席人数を確認する必要がありますので、お手数ですが**6月15日(土)までに、同封の返信用封筒に入れて投函**戴く様、お願い致します。

5月研究会の報告

研究会担当 松本憲治

5月研究会では、以下の内容を行いました。

1. アンセル・アダムスの暗室作業について

You Tube動画の「Ansel Adams Home & Darkroom」を上映し、Ansel Adamsが8x10で撮影・密着プリントを作成している様子を鑑賞した。また、Ansel Adamsの有名なモノクロプリント「Moonrise, Hernandez, New Mexico」を撮影した際のエピソードとプリントの仕上げによる違いを鑑賞した。

「Monolith, Half Dome」を撮影した際のエピソードを基に、その後Anselが提唱する「Visualization」についての解説を行った。

2. Zone Systemによる測光方法

アナログ写真における永遠のテーマ「いかにして狙いの露出を決めるか？」について、Zone Systemに基づくスポット測光のキーポイントと、測光したデータを基にして適正露出の割り出し方について、You Tube動画を参考資料に解説を行った。

(詳しくは同封の「How to Meter Zone System」の資料を参照)

3. 2020展出展候補作品審査会

事務局便りにある通り、9名の作品を投影・審査を行い、合計18作品の候補作品を選定した。4月の審査会の結果と併せて13名、29点の作品が選出された。

4. モノクロ研究会の活動報告

5月のモノクロ研究会では、同一のネガから異なる印画紙にプリントした際の仕上がりの違いについて評価を行った。

評価に使用した印画紙は、イルフォードのFB(バライタ)印画紙。FB Classic のGlossyとMatt、FB WarmtoneのGlossyとSemi-Matt、それとART300 (Egg Shell texture) の5種類。

プリントに使用した器材は以下の通り。

- ・引伸し機：Lucky 450M-D
- ・引伸しレンズ：EL Nikkor 135mm F5.6
- ・絞り：F16 (FB Warmtone, ART3400)
F11 (FB Classic)
- ・VCフィルター：全てIlford #2使用
- ・現像液：中外 My Paper Developer
- ・停止液：中外 My Stop Bath
- ・定着関：中外 My Fixer
- ・水洗促進浴：富士 QW

プリントを検証した印象は、

- ・Glossyの面質がコントラストが高く、風景写真のプリントに向いている印象である。
- ・マット系の面質は、全体に柔らかな表現に向いている印象。女性のポートレートなどには柔らかな描写に向いている印象である。
- ・同じマット系でもArt300のEgg Shellの印象は、表面は平滑な他のマット系印画紙とは異なり、独特の風合いにより表面の反射が押さえられ、マット系の中では一番風景写真に向いている印象である。
- ・FB WarmtoneやART300などの温黒調印画紙は、Warmtone現像液で処理することで仕上がりの色味が大きく変化するので、次回Warmtone現像液での評価も行う予定。

【6月研究会について】

6月は定期総会を開催しますので、研究会はお休みです。

次回の研究会は7月20日午後1時半から大阪写真会館 4階会議室での開催の予定です。

2020展出展作品の審査も、残すところ7月、8月の2回となりました。9月開催の最終出展作品確認会では、8月までに出品作品の審査終了の会員に限り、出品作品の追加・差替審査を受けることができます。2020展で出品出展を希望される会員は、**必ず7月と8月に開催する出品作品審査会の何れかに作品を提出して下さい。**

【モノクロ部会例会の開催日程】

6月モノクロ部会の例会を、下記日程にて開催致します。

日時：6月9日 (日) 13:00~15:00

場所：神戸 B&W Lab. 暗室内

内容：

1. 印画紙による仕上がりの変化
2. プリント技術に関する情報交換
3. 2020展出展モノクロプリント打合せ

※暗室でのプリント作業は9時から出来るよう準備します。

※プリント作業を希望する方は、出来るだけ9時頃に来場下さい。(原則として、午後は現像作業は行わない)